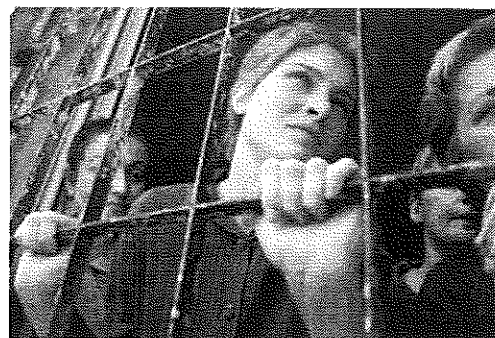


Mattoとは、イタリア語で“狂気をもつ人”。
Mattoの町とは、精神病院のこと。
イタリア全国の精神病院をなくす法律をつくる
きっかけとなった町が舞台となった物語です。



映画上映 & 大熊一夫氏(ジャーナリスト)講演

映画「むかし Matto の町があった」



2014年9月27日(土) 10:00~16:30

会場：八王子労政会館 (京王線京王八王子駅徒歩5分/JR中央線八王子駅北口徒歩10分)

9:30 受付

10:00 映画第1部上映

12:00 休憩

13:00 第2部上映

14:45 休憩

15:00 大熊一夫氏講演「精神病院を捨てたイタリア 捨てない日本」

16:30 閉会

定員：100名
(事前申込制)
資料代：1000円

主催：ヒューマンケア協会、
東京都自立生活センター協議会(TIL)、
バザーリア映画を自主上映する
180人のMattoの会
後援：八王子障害者団体連絡協議会、
イタリア大使館
共催：RAIフィクション、
フランカ&フランコ・バザーリア記念財団、
トリエステ精神保健局



イタリアの精神保健の歴史的転換を描いたこの映画は、マルコ・トゥルコ監督による3時間の大作で、イタリア国営放送で放映され21%以上の高視聴率をとり、ヨーロッパ各地、ブラジル、アルゼンチン、トルコ、イラン、そして日本と世界中で自主上映運動が広がっています。

イタリア中の精神病院を廃止する180号法が成立するきっかけとなる出来事を描いたこの映画の物語は、後にイタリア精神保健改革の父と呼ばれるフランコ・バザーリアが、1961年にゴリツァ県立精神病院長に赴任したところから始まります。15年間病院のベットに縛り付けられているボリスや、小さな檻に閉じ込められているマルゲリータに出会ったバザーリアは、病院の収容所臭さをなくすことに心血を注いでいきます。

「自由こそ治療だ！」を合言葉に、バザーリアが目指した世界をのぞいてみませんか？

(映画はイタリア語音声、日本語字幕となります。)

【講演者 大熊一夫氏のご紹介】

180人のMattoの会代表

ジャーナリスト

元朝日新聞記者、元大阪大学教授

著書「精神病院を捨てたイタリア 捨てない日本」

「ルポ・精神病棟」他

*1970年、アルコール依存症を装って精神病院に潜入入院し、

「ルポ精神病棟」を朝日新聞社会面に連載。

鉄格子の内側で日常的に行われていた入院者虐待を白日のもとにさらし、

日本の精神医療改革に一石を投じる。

(大熊氏 HP より：<http://okumakazuo.com/profile.php>)



【会場】八王子労政会館 東京都八王子市明神町3-5-1

(京王線京王八王子駅徒歩5分/JR中央線八王子駅北口徒歩10分)

【申込み・問合せ先】

東京都自立生活センター協議会 (TIL)

(Tel) 042-540-1844

(Fax) 042-540-1845

(Eメール) til_jimukyoku@yahoo.co.jp

先着順とし、定員になり次第締め切らせていただきます。

必要事項をご記入の上、メールまたはFaxにて事前にお申し込み下さい。

定員超過にてお断りする場合のみ、こちらからご連絡します。

【申込み必要事項】

お名前	
ご所属先	
電話番号	
Eメールアドレス	
その他	*座席確保等の関係上、車いす利用や介助者同行、その他留意事項等がございましたら、ご記入お願いします。